

奥入瀬溪流のマイナスイオンに着目



奥入瀬溪流のマイナスイオンの数値を記したマップ

八大生ら観光マップ作製

十和田市に2千冊贈呈

八戸大の学生らが、十和田八幡平国立公園・奥入瀬溪流のマイナスイオンの発生状況をまとめた観光マップ「奥入瀬溪流マイナスイオン物語」を作製し、30日、十和田市に2千冊を贈呈した。市は道の駅などに配布し、溪流の観光PRに役立てる方針だ。

学校法人光星学院系列の八戸大と光星高、野辺地西高の学生や生徒が、新たな切り口から奥入瀬溪流の魅力を発信しようと、ストレ



小山田久十和田市長(右)にマイナスイオンのマップを贈呈する八戸大の学生ら

ス軽減などの効果があるとされるマイナスイオンに着目した。2009、10年度、専用の計測器を使って調査し、観光用に分かりやすくまとめた。折り返み、縦13・5センチ、横9・5センチのポケットサイズとしたマップには、溪流の19カ所で計測した1cc当たりのマイナスイオンの数値を記載。最も高い「寒沢の流れ」は約6万個。2位の「雲井の滝」2万7千個、3位の「銚子大滝」2万2千個と続く。

同大によると、溪流ではマイナスイオンが千〜2千個の場所が数多くあり、八戸市街地(360個)などを大きく上回るという。30日は、同大人間健康学部の三島隆章准教授や同大ビジネス学科3年の曲道綾香さん(三〇)、八戸短大1年の大室彩音さん(一八)ら、マップの作製に携わったメンバーが市役所を訪問し、小山田久市長にマップを手渡した。小山田市長は、「マイナスイオンの」数値を示すのは、PR効果が大い。ぜひ活用したい」と感謝の言葉を述べていた。